



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムルシー大統領の中国、イラン訪問

エジプトのムルシー大統領は、大統領就任後、2度目の外遊を行った。ムルシー大統領は、8月28日、中国を訪問、胡錦濤国家主席と会談した。同大統領は、中国政府首脳とシリア問題などを協議した。経済面では、ムルシー大統領と胡錦濤国家主席は、経済、貿易、農業、観光、通信、環境に関する8プロジェクトについての合意に署名。同合意に関連して約7000万ドルの無償協力を含む技術協力協定に署名した。エジプト国立銀行総裁と中国開発銀行は、エジプトの中小企業支援のための2億ドルの融資協定に署名している。

ムルシー大統領は、30日、テヘランで開催される非同盟首脳会議に参加するためイランを訪問した。エジプト大統領のイラン訪問は、1979年にエジプトがイスラエルと和平条約を締結した後、初めてと報道された。同大統領は、約6時間イランに滞在した。今回の外遊前から、シリアのアサド政権に批判的だったムルシー大統領は、非同盟諸国首脳会議での演説で、チュニジア、エジプト、リビア、イエメンでの革命と同じ流れの中に、シリアがあるとして、政府に抗議する国民運動への支持を表明した。同会議に出席していたシリア代表団は、内政干渉だとして、会議場を退席している。

アフマディーネジャード大統領との会談では、ムルシー大統領は、外国軍のシリア介入を避けるためにも、イランのシリア支援を停止すべきだと伝えたと報道されている。ムルシー大統領は、演説では、国連安保理の改革や非同盟諸国としてパレスチナを支援する必要があることなどにも言及した。

米務省報道官は、シリアを支援するイランの首都で行われたムルシー大統領のアサド政権非難の演説を歓迎した。その米国をムルシー大統領は、9月24日～25日に訪問する予定である。国連総会にも参加する。米国からは、7月中にクリントン国務長官とパネッタ国防長官がエジプトを訪問して、ムルシー大統領と会談している。イスラエル側の報道では、ムルシー大統領の国連訪問にあわせて、ムルシー大統領と米国のオバマ大統領、イスラエルのネタニヤフ首相の3者会談の調整が行われていると報道されている。

3者会談が実現するかどうかについて、イスラエル側は、ムルシー大統領の判断次第だとしている。

(中島主席研究員)